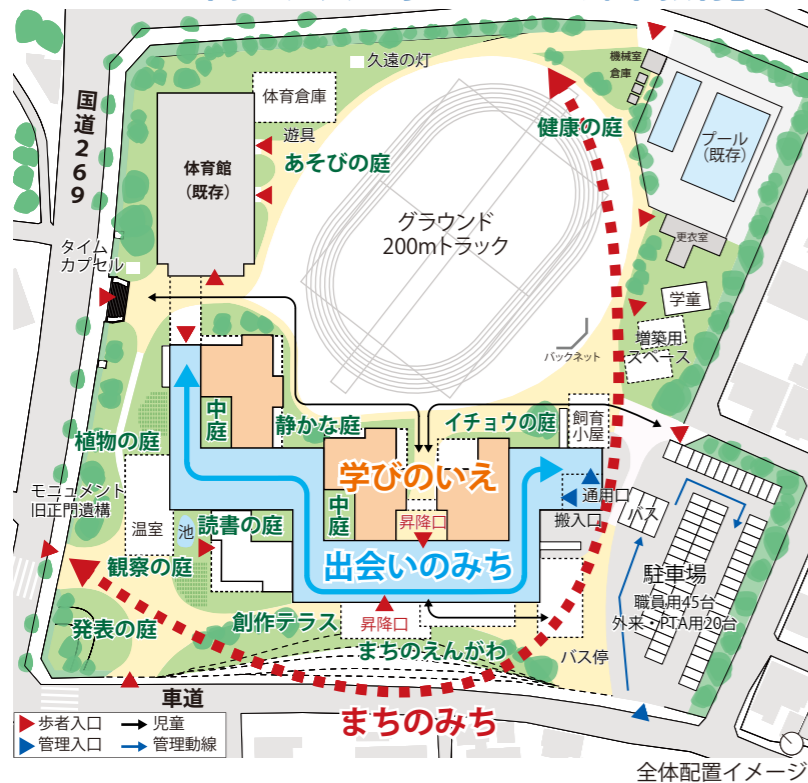






## 01 まちに開き、共に学びあう「郷中教育」の場



### ■誰もが学びあいに参画できるきっかけをつくる

#### ①気軽に訪れることのできる「まちのみち」

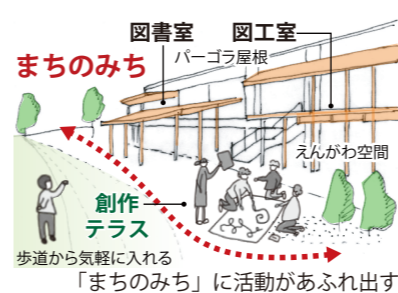
敷地内に市役所や向江公園からつながる道を引き込み、旧正門から北西スロープまでぐるりと「まちのみち」をつくりまわります。公園のように地域の誰もが気軽に訪れたり、日常的に安全に通り返れることができます。

#### ②まちに開いたえんがわ空間と迎え入れる屋根

「まちのみち」に面して特別教室や図書室を配置し、校内で行われる学びを見えるようにします。こどもたちの活動・作品・図書が見えることで、地域の人の興味を促進し、学校に関わるきっかけをつくりまわります。建物外周にはえんがわやパーゴラなどを設け、ヒューマンスケールな居場所をつくりまわります。開かれた柔らかなファサードは、まちへの圧迫感を軽減します。

#### ③周辺環境と調和する、豊かな緑の風景

敷地内には地域の植生を活かした庭を設け、屋外空間も学びの場として使えるような、豊かなランドスケープをつくりまわります。また、植物を育てることをきっかけとした交流を促す「タネプロジェクト」を実施します。



### ■地域に開き、地域で見守る

#### ①歩車分離を徹底した、誰もが安全に歩ける環境

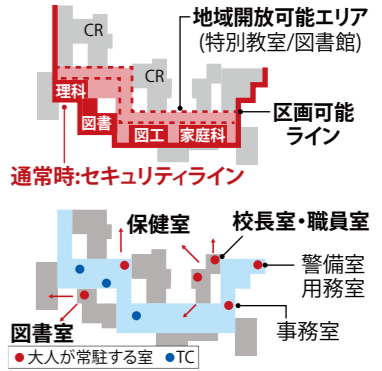
日常的な車両動線は、現在と同じ南角に集約し、歩車分離を徹底します。「まちのみち」は、誰もが敷地内を安全に通行できる開かれた遊歩道のような空間です。日常的に地域の人が歩ける場所があることで、学校と地域のつながりをつくり、学校の敷地内だけでなく校区全体を地域が見守る環境とします。

#### ②多層的な空間による、柔軟なセキュリティライン

まちに開きつつもこどもたちの安全を確保するために、開かれた場と守られたこどもの場をグラデーションに配置し、また雁行する室配置によって様々なセキュリティ区画のできる計画とします。具体的には、「まちのみち」に面した特別教室と図書室を地域開放できます。またイベント時には教室との間を区画し共用部を全て開放することも可能です。

#### ③大人の目を分散させ、敷地全体を見守る

広い敷地内になるべく死角をつくらぬよう、職員室や保健室、図書室、といった常時大人の滞在する管理諸室やTC (ティーチャーコーナー) を分散して配置し、各所に目が行き届くようにします。

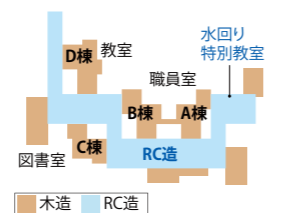


## 02 世代・学年・特性を超えた交流の生まれる場

### ■豊かな活動と交流を生む、新しい学びの空間

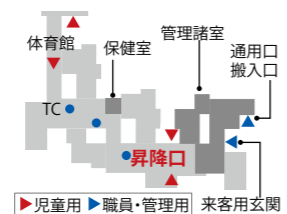
#### ①木造とRC造を組み合わせた、適材適所な機能配置

こどもたちの日常的な居場所となる教室とその廻りの空間を地場産材による温かみのある「木造」、水・薬品等の使用や音環境の制御などの機能が求められる特別教室、水廻り等を「RC造」とし、室の機能に応じた合理的な計画とします。



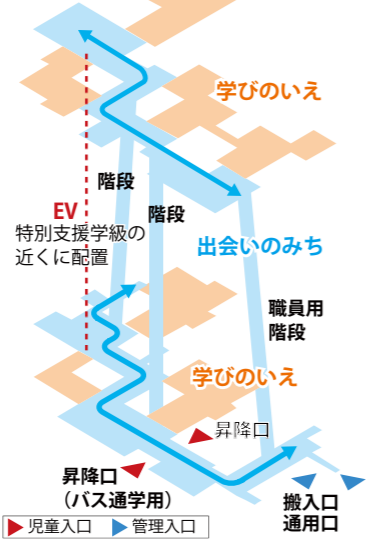
#### ②教職員の連携を高める、効率的な執務環境

管理諸室はグラウンドや来客動線を見守ることのできる南東に集約し、落ち着いた執務空間をつくりまわります。各学年のTCは共用部に面して点在配置し、こどもたちと近い距離で接しながら執務ができる場所とします。2つの執務空間を使い分けることで、教職員の連携がしやすく、快適な働く環境を実現します。



#### ③立体的な回遊性のある、どこへも行きやすい動線計画

校内は中庭や吹抜を介して立体的に巡ることができ、複数のルートから目的の室へ辿り着けるようにします。どこへも行きやすく、また巡ることで異学年交流を自然に促進します。EVは、特別支援学級の近くに配置し、移動教室が容易にできる計画としています。



昇降口は校舎中央に南北に面して配置します。様々な方角からのアプローチに対応し、グラウンドへの出入口をシンプルに集約します。



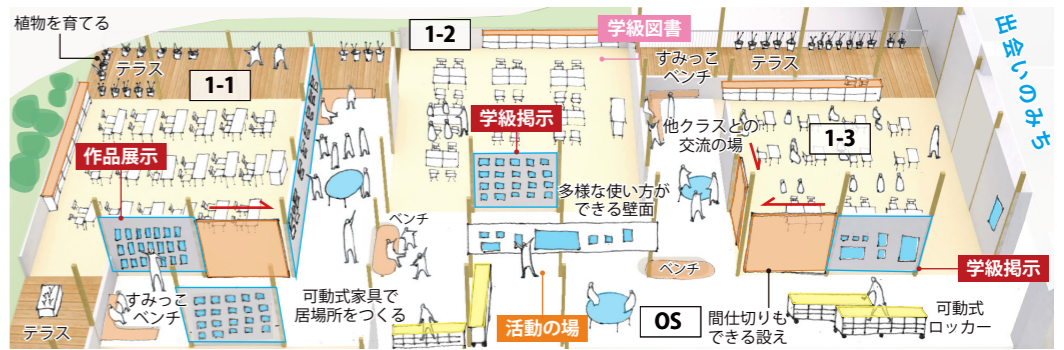
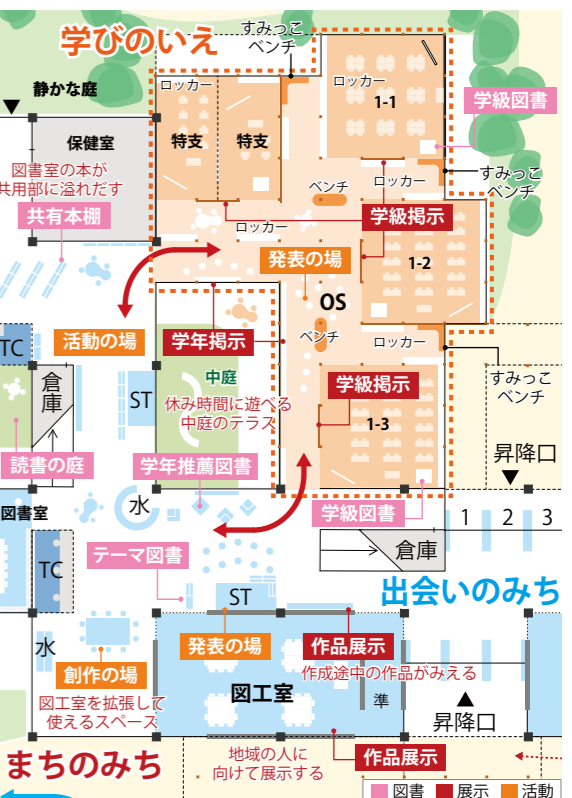
#### ④学年をつなぐ交流を生む「出会いのみち」

中庭を介して各学年クラスターと特別教室を配置します。特別教室での学びや作品展示を通じて、日常的に異学年交流が生まれます。また特別教室は「まちのみち」に面して地域との関わりが生まれる場となります。

「出会いのみち」には図書、各学年の作品、学びの活動などが溢れます。ICTを活用し、学校全体が様々な情報に触れることのできる場とします。中庭やテラス、特別教室のえんがわは上足で出られる屋外の学びの場です。

#### ⑤フレキシブルで温かみのある木造の学年の居場所「学びのいえ」

こどもたちが長い時間を過ごす教室廻りは地場産材を活用した温かみのある木造とします。学年ごとにまとまった棟として、中庭を中心に異学年とつながりつつも、学級図書や教員、掲示、ベンチなどによって、自分たちの居場所を自由につくり出すことができます。





### 03 曾於市ならではの原風景を感じる場

#### ■暮らしに配慮し、まちとの関係を整える

##### ①日影と圧迫感に配慮した低層の建物配置

校舎は2階建として敷地南側に配置し、周辺住宅地に日影を落とさないとともに、圧迫感にも配慮しています。木造の縁側や低い屋根などにより、近隣の住宅に馴染む佇まいとしています。

##### ②音に配慮した校舎とグラウンド配置

校舎の中でも、生徒が主に滞在する普通教室は敷地中央に配置し、グラウンドは周辺敷地よりも高台となる北側に配置し、近隣住宅への騒音に配慮しています。敷地境界よりバッファーを設けて校舎を配置し、敷地の周縁部に植栽を植える計画とします。

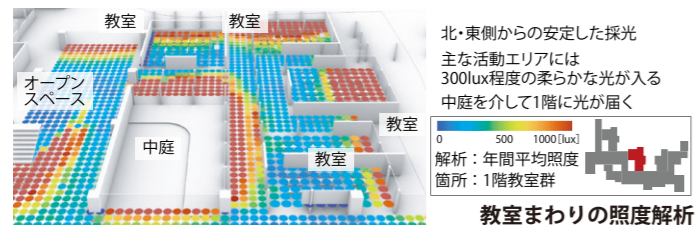
##### ③心地よい緑豊かな風景をつくる

敷地内を巡る「まちのみち」は、地域の安全な歩行空間として利用できます。周辺には地域の植生を活かした植栽を施すことで、緑豊かなまちの風景をつくります。

#### ■鹿児島県の豊かな環境特性を活かす

##### ①日差し対策により、安定した光環境をつくる

普通教室は北や東に面して配置し、自然光を活用しつつも眩しすぎず安定した光環境をつくります。午前中の活動にも考慮して屋根やテラスにより日射を遮蔽します。中庭を各所に設けることにより、奥行きのある平面の中にも、随所に光を取り入れることが可能です。南、西に面した特別教室は、屋根やパーゴラ、緑陰により日射を遮蔽します。

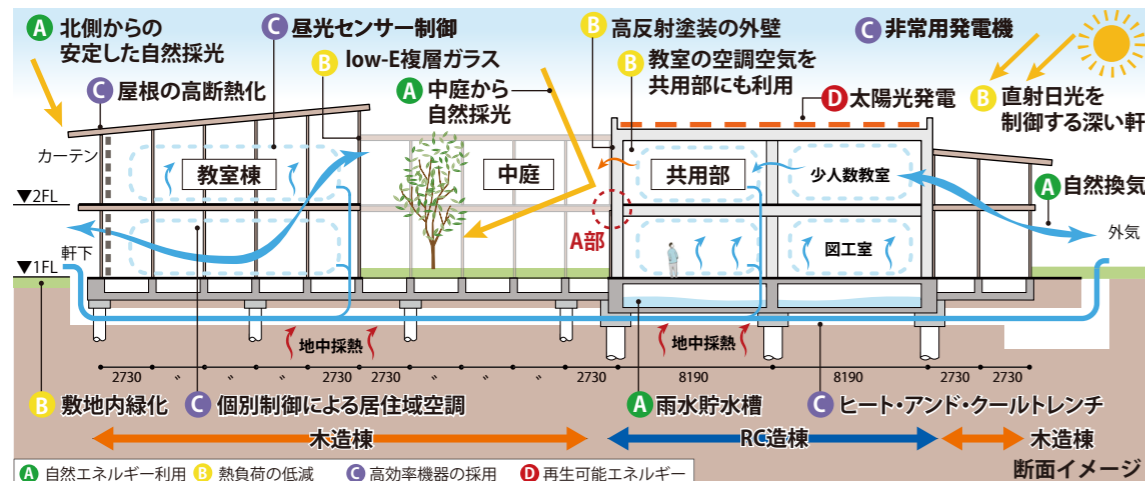


##### ②空調期間を抑える、自然風の抜ける校舎

実測調査を元にした環境シミュレーションを行い、特に中間期に心地よく風の通り抜ける校舎を実現します。十分な換気量を確保することは、感染症対策にも重要です。

##### ③きめ細やかに個別制御のできる空調計画

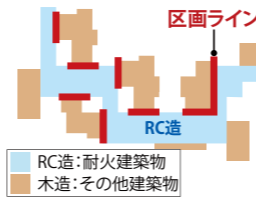
校舎全体を居住域空調とし、きめ細やかに個別制御のできる仕組みとすることで、広い空間でありながらランニングコストを抑えることができます。



#### ■LCCO2を削減しつつ、快適な環境をつくる

##### ①建設に伴う環境負荷を軽減する、合理的な構造計画

今年度の改正基準法に定められた別棟木造を採用します。中央のRC造で耐火、耐震性能を確保し、木造はその他建築物としてコストを削減します。木造を採用し全体の建物重量を軽くし、地盤や基礎への負担を軽減します。



##### ②木造棟で外皮を包み、RC棟の熱負荷を低減する

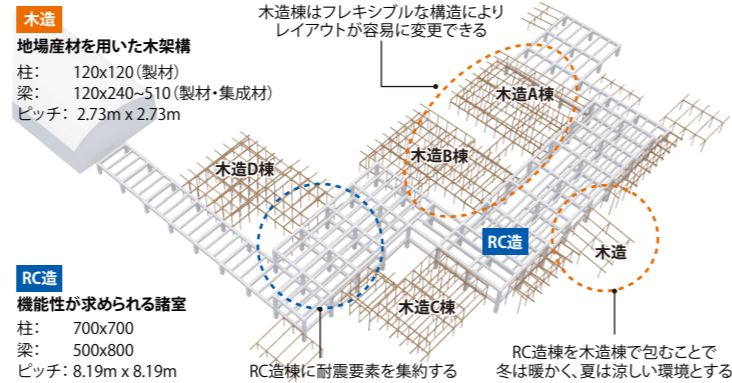
RC棟を中心に、外皮を木造棟が包むことで、熱容量の大きなRCと外気が接する面を少なくします。特に夏場のコンクリートへの蓄熱を抑えることにより、空調機器の負担を低減し、省エネルギー化を図ります。

##### ③将来改修やメンテナンスの容易な構造 / 設備計画

耐震壁をRC棟に集約して木造棟の地震力も負担させることで木造棟の耐震壁を極力減らし、教室周りの将来的なレイアウト変更を容易にし、改修工事等にかかるコストを削減します。校舎内にはシンプルな設備ルートを通し、また点検のしやすい設えとすることで、将来にわたって設備更新などのメンテナンスが容易にできる計画とします。

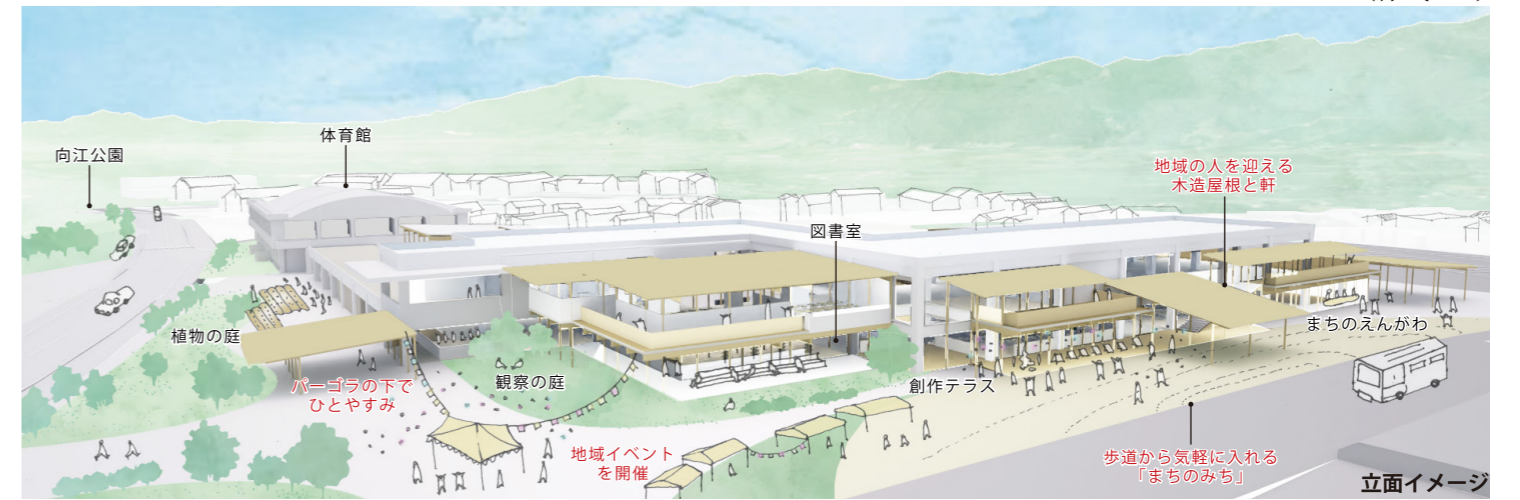
##### ④地域の素材を地産地消する

木材は地産産材を、内装にはシラス左官の採用等を検討し、素材の地産地消を行うと共に脱炭素化に貢献します。地域の素材を使うことは地域経済の循環を促すと同時に、こどもたちの郷土愛を育むきっかけとなります。



##### ⑤確実なコスト管理とランニング

設計の節目で概算工事費を算出し、インシヤルコストを確実にコントロールします。また、ZEBReady基準の一次エネルギー消費量約50%削減を実現し、ランニングコストを低減します。



### 04 持続的な対話により、地域教育の未来を共に考える

#### ■まちのみなさまと共に

##### ①持続的に地域に携わる東京・鹿児島協働チーム

東京を拠点とするアトリエ事務所と鹿児島を拠点とする協働事務所の協働チームとし、永く地域に携わっていくことを目指します。各主任技術者は、全国での公共施設や教育施設の実績豊富な設計チームが高度な専門性を活かして、質の高い施設づくりを実現します。

##### ②末吉ならではの地域教育を目指す

設計から開館までを通じて、鹿児島県で活動するまちづくりファシリテーターを中心に、地域にふさわしい学校のあり方や教育について共に考え、つくる仕組みを提案します。

##### ③地域ぐるみの学校づくりのプロセス

私達は、提案段階から地域のまちづくり活動や近隣の中高生と関わりながら、地域ぐるみの学校づくりを行うことをきっかけとして、共に学びあう場づくりを将来にわたって実践します。

#### ■工事中の安全に配慮した建替え計画

##### ①工区 / 工程の少ない、シンプルなローリング計画

広い敷地を活かして工事区域を明快に分離し、工事エリアの区分や工事工程をなるべく少なくすることで、引越しややり変えなどの少ない、シンプルなローリング計画を実現します。

##### ②学校活動に配慮した、無理のない工程計画の設定

工事期間中は工事エリアと学校活動エリアを明快にゾーニングし、動線が交錯しない安全な計画とします。また解体期間にも駐車場を敷地内に確保します。学校行事やカリキュラムに合わせて、工事音などの影響が出ないように無理のない工程計画を設定します。

